

春日真人著「100年の難問はなぜ解けたのかー天才数学者の光と影ー」新潮文庫、新潮社

2011年6月1日刊を読む

100年の難問はなぜ解けたのか

1. 博士にインタビューしている間、大変失礼ながら「言っていることが難しすぎる……」と考えていた。英語がわからないという意味ではない。内容がわからないのである。

そして、ある数学者に言われた言葉を思い出していた。

「数学はひとつの言語だ」

数学者は、例えば英語や中国語と同じように「数学語」という特殊な言語を身につけていると考えるべきだという。その言語をマスターしなければ、数学者の言うことの真意はわからない。つまり、数学的基礎をひとつとおり学んでいない人間が数学者と同じ視点に立つことは容易ではない、という意味だ。

P121 ~ 122

2. 数学の本質とは、世界をどういう視点で見るといふことに尽きます。数学的な考え方を学べば、日常はまったく違って見えてきます。文字どおりの「見る」、つまり網膜に映るといふ意味ではありません。学ぶことによって見えてくるという意味です。

新しい言葉を学ぶと、それまでその言葉にまったく出会ったことがないのに、次の日に会ったりして不思議に感じます。それと同じことです。物事を習うことは、物事を見ることです。あなたにとっては、もう幾何やトポロジーは生活の至るところにあるはずです。

P159

[コメント]

NHK スペシャルの春日ディレクターの最先端の数学の啓蒙書。1世紀もの長い間、世界中の数学者が挑戦した超難問、「ポアンカレ予想」への挑戦の歴史。「数学は言語」「物事を習うことは物事を見ること」。ことばの意味の理解と、その内容の理解の相違など、学ぶことが多い。

— 2012年5月14日 林 明夫記 —